

まちづくりグループ

まちづくりグループの質問を始めます。

私たちのグループは、広島の魅力を多くの人に知ってもらうための方法やまちにあるといいなと思う施設について、話し合いました。

このことについて3つの質問をしたいと思います。

質問1 「世界中の人に知ってもらえる広島県」について

1つ目の質問は、「世界中の人に知ってもらえる広島県」です。

世界遺産の原爆ドームのある広島市や厳島神社のある廿日市市「宮島」は、広く世界中の人に知られていますが、それ以外にも三大酒どころの一つである東広島市「西条」や、島ごと美術館と呼ばれる「生口島」のある尾道市、伝統神楽の盛んな安芸高田市など、魅力的な観光地や、伝統的な産業・文化のある地域が多くあります。

こうした地域の魅力を県外や海外の人に知ってもらうための情報発信として、何か面白い方法はないか、グループで考えました。

そこで1つ目の提案です。広島県を代表する新たな公式マスコットキャラクター、いわゆる「ゆるキャラ」をつくってはどうか。広島県にもいくつかの「ゆるキャラ」はいますが、県を代表する「ゆるキャラ」はいません。

例えば、熊本県の「くまモン」は、熊本県のPRを目的に、メディアやイベントを通じて様々な情報を発信するとともに、企業とコラボしたグッズ展開などもあり、国内はもちろん、海外でも人気のキャラクターとして活躍しています。

広島県を代表するキャラクターとして、県内各地の魅力を国内外で発信すれば、多くの人に知ってもらえ、これまで以上に興味を持つ人や訪れる人が多くなると思います。

2つ目の提案は、VR（バーチャルリアリティ）による情報発信です。県外や海外の人に広島を知ってもらうためには、実際に来て、伝統的な産業や文化に触れてもらえることが、いちばんですが、一度に何箇所も訪ねることは難しいと思います。

そこで提案です。こうした様々な機会を疑似体験できるアプリを提供してはどうか。そうすることで、スマホやタブレットで、誰でも、いつでも、どこからでも、手軽にアクセスできます。この体験を通じて、世界中の人に広島県の魅力をもっともっと知ってもらえると嬉しいです。

答弁（経営戦略審議官）

マスコットキャラクターを活用した情報発信は、視覚的な効果があるため、印象に残りやすく、興味をもってもらいやすい、見た目や動きにより親しみがわき、イメージアップにつながるなど、いろいろな取組の効果を高める上で重要であると考えています。

このため、広島県では、各取組において、例えば、子育て応援は「イクちゃん」、文化振興は「ブンカッキー」、防災・減災は「タスケ三兄弟」など取組に合わせたデザインや名前のマスコットキャラクターを作成し、広報物等に活用するなどして、県民の皆様へ、取組の内容やメッセージを分かりやすく発信してきたところです。

ご質問にあった「県内各地の魅力を国内外の方に知ってもらいたい」という皆さんの想いは私たちも同じで、これまで色々と考えを巡らせてきました。

こうした中、広島のことを好きで、SNSなどで広島の魅力を発信していただけるような広島ファンを、国内、海外で増やしていくための新たなキャラクターとして、先月、「ひろくま」が誕生したところです。

この「ひろくま」は、広島県にある美味しい食べ物が大好きな熊で、中でも、特産のレモンを食べ過ぎて、体が黄色くなったということです。

まだ、生まれて一か月余りですが、既に、国内外の様々な場所に出没しており、先月には、東京、大阪やシンガポールの観光イベントなどに出演して広島の魅力を発信したり、観光客との交流を楽しんだりしていたようです。

この「ひろくま」に聞いたところ、「広島の魅力を多くの人に届けていきたい」ということなので、皆さんにも「ひろくま」のファンになっていただき、一緒になって広島の魅力を発信していただくと嬉しいです。

次に、VRによる情報発信については、皆さんが言われたとおり、広島の多くの魅力を知ってもらうための有効な手段の一つであると考え、VRの視聴をきっかけとした観光客の増加も期待できることから、その活用にも取り組んでいるところです。

例えば、平和記念公園を3Dで見学できるもの、牡蠣の水揚げを体験できるもの、江戸時代から受け継がれてきた大名庭園である縮景園を散策できるもの、海外の人が、伝統芸能である広島神楽の公演を英語字幕付きで鑑賞できるものなど、スマホやタブレットを通じて、誰でも、いつでも、どこからでも、手軽に広島県の魅力を体験できるようにしています。

こうした取組を充実させていくことにより、県内各地に存在する観光地や、おいしい山の幸・海の幸、さらには、個性あふれる伝統的な産業・文化といった本県の多様な魅力や価値を県外や海外の人に知っていただけるよう進めていきます。

最後に、皆さんの広島魅力を発信したいという強い想いを聞いていて感じたことですが、私たち一人一人が実感している広島魅力を少しずつでも周りの人たちに伝えていけば、広島をアピールする「すごい力」になると思いましたので、皆さんも、広島魅力をいろいろな場面で発信してください。

質問2 「地域の学習スペースの整備」について

2つ目の質問は、「地域の学習スペースの整備」についてです。

私は、「あいあいプラザ」という施設に通い、自習をしています。

「あいあいプラザ」は、広島市の地域交流センターのひとつで、交流スペースや図書コーナーは自由に使えるほか、わからないところを教えてくれる大人の人もあります。

子供議会の勉強会で、この話をしたところ、他の地域では、自習できる場所が少なく、困っているという話や飲食店等で長時間、勉強している生徒がいて、食事を利用したい人が利用できないという話も聞きました。

私の住んでいる地域でも自習室が少なく、席が埋まっていて利用が難しい時もあります。自習室のある塾もありますが、塾に行くのが難しい子もいると思います。

学習スペースでは、集中して勉強ができるし、わからないところは教え合うこともできます。見守りや教えてくれる大人の人がいれば、安心して利用できます。

そこで提案です。こうした誰もが自由に自習などに利用できる「地域の学習スペースの整備」を進めてはどうでしょうか。地域に学習スペースが増えれば、しっかりと勉強ができて、将来の夢や希望がかないやすくなると思います。

答弁（教育長）

「地域の学習スペースの整備」について、お答えします。

自分の夢を実現するため主体的に学ぶことは、非常に重要ですね。

誰もが自由に利用できる「地域の学習スペース」は、大切だと私も思います。

このため多くの市町では、「学習スペース」として図書館に「自習室」を設けたり、公民館の会議室を開放したりしています。

また、地域の方々がわからないところを教えてくれる「学習支援」に取り組んでい

る市町もあり、県教育委員会では、その運営に必要な費用を補助したり、大学生ボランティアを派遣したりすることにより、各市町における取組を応援しています。

今後は、各市町において「地域の学習スペース」が増えていくよう、機会を捉え、皆さんの声を伝えていきたいと考えています。

皆さん自身も「地域の学習スペース」の必要性や、増やしていく方法などについて、学校でクラスの仲間と議論し、例えば、直接、地元の公民館などに自分たちの思いを伝えていくなど、自らの力で、今の状況を改善することについても、挑戦してほしいと思います。

質問3 「空き家の有効活用」について

3つ目の質問は、「空き家の有効活用」についてです。

2つ目の質問の「学習スペースの整備」について、どこに、どのような方法でつくるのがいいか、話し合ったところ、新しい建物を作るとお金やその土地も必要となるので、空き家や今ある施設を活用すれば、ムダもなくなるのではとの意見が出ました。

そこで空き家について調べたところ、平成30年の調査によると、広島県には、約22万戸の空き家があり、空き家率は15.1%と全国平均よりも高いことがわかりました。空き家のほか、空き店舗などの使われなくなった施設も多くあります。

私の家の周りにも多くの空き家がありますが、その活用策として、移住を検討している人と空き家を結び付ける「空き家バンク」という仕組みがあります。

そこで提案です。空き家を住宅だけではなく、放課後の学習スペースや地域の集会所などのみんなのために使う目的で利用を希望している人や団体と結びつける仕組みを作ってはどうか。使い道が広がれば、空き家を貸したい人や利用したい人も増えて、空き家が減るのではないのでしょうか。

空き家を有効活用し、子供や高齢者など、誰もが安心して利用できる施設が多くできれば、まちが活性化し、楽しく安心して暮らせる広島県になるとと思います。

答弁（都市建築技術審議官）

空き家は貴重な地域資源でもあり、皆さんから御提案いただいたように住宅としてだけでなく、学習スペースや地域の方々が集まれる施設など、幅広い用途で利活用していくことが大切であると考えています。

このため、広島県では、市町と協力して、広島県全体の空き家物件の情報発信や、空き家の様々な活用事例を紹介して、空き家を持っている方と利用を希望する方のマッチングに向けて取り組んでいます。

こうした取組の中で例えば、江田島市や坂町では、地域の方が空き家を改修し、子ども食堂や放課後に子供が集まれる場所として活用している事例が生まれています。

また、県内の民間団体では空き家を使って地域の交流拠点などを作りたい方の声を発信し、それに合った空き家を募集する仕組みも提供されています。

さらに、広島県では、地域に元気を生み出していくための取組を応援しており、江田島市では、地域の方々のイベント利用や、市外から来た方の宿泊にも利用できる施設への空き家の改修、大崎上島町では、地域の子供たちがアイデアを出し合って、地域住民と子供たちが一緒に学べる空間づくりのための空き店舗の改修などの取組が進んでいます。

皆さんから御提案いただいた内容も参考にして、引き続き、空き家と活用したい方々を繋ぐ取組を多くの市町に広げて、さらに地域が元気になり、楽しく安心して暮らせるように空き家の利活用を進めていきます。